

禅と氣道

— 形而上から
形而下まで —

古人はこう述べています。

「衆生本来仏なり 水と氷の如くにて

水を離れて氷なく 衆生の外に仏なし」

衆生、つまり、我々生けとし生きるもの全てが仏である、と。

自分は一体何の為に生まれてきたのか

生命はどこから生まれてきてどこへ行くのか

そもそもこの「私」とは何か

誰もが一度はこのような素朴な疑問を持ったことないでしょうか。

普通に考えてもさきがありませんし、多くの人は忘れてしまいますが（もちろんそれで構わないのですが）、でも実は全ての人にとって根源的な問いです。そしてその問いと真剣に向き合わざるを得ない時が人生に訪れたりもします。それは深く自分の生命と向き合うチャンスなのです。

この現代は様々な価値観が溢れ、一体何を信じて良いのやら分からないような時代のように言われています。また日本人には心の軸が抜け落ちてしまっているようにもみえます。しかし、このような時代においてこそ禅は有効なツールです。それは「本当の自分」を自覚し、そして自分らしく生きていくことそれ自体かもしれません。この道は専門のお坊さんだけではなく、老若男女あらゆる方に開かれたものであってほしいと私は願っています。

禅の行法は長い歴史の中で鍛えられ続いてきた東洋の叡智の結晶といえます。

ですが禅の道場で行われている修行方法は、現代人には肉体的

に（またあるいは精神的にも）負荷が大きく、また私自身も随分無理を重ねてまいりましたので、特に身体面のフォローの必要性は修行中も痛感しておりました。

「自分は伝統的な禅のやり方しか知らなかったし出来なかった。でも、これから人にお伝えていく上で、フィジカルな面、エネルギー的な面も含めて、もっとトータルに生命を観る眼を自身に養っていくことは出来ないだろうか」

そんな事を考えていた矢先に、長谷川浄潤先生そして整体に出会いました。

個人指導を受け、またそしてお話を伺っていくたびに驚きの連続でした。

浄潤先生が整体に見ておられる世界、またそれを先生ご自身が体现されていること、それはまさに私の求めんとする「禅の実践のひとつの可能性」そして「生命を観る眼をもつこと」と直結すると言つてよいのではないかと。

そしてついにこのようなコラボ講座が実現することとなりました。

私が担当する講座の前半部では、禅に関心をお持ちの方々にまず入り口を、そしてすでに坐禅や瞑想をされている方にとっては今後の指針になるようなものをお伝えできればと思います。無理なく無駄のない坐禅の実践もしていただきます。

そして、後半は浄潤先生へバトンタッチ。氣道の世界へ。どのようなお話が伺えるのでしょうか。誰よりも楽しみにしているのは私自身なのかもしれません。

（五十部友啓）

禅———なんといひ響きなのでしょう。

最近とみにそう感じます。

小学時代から禅には大変関心のあった私ですが、実際の修行を長年行ったわけでもなく、お坊さんにお会いするごとに、「がんばっていらっしゃるのだろうか」という感慨ばかりがありました。

私自身、僧籍こそ持っておりますが、在家でかつ修験道ですから有髪ですし、氣道の理念をよいことに要求を尊重した生活をしておりますので、余計にそう感じてしまうのかもしれませんが。

（なにせせ度する寸前まで現代版の忍者修行をしているとばかり思っていた位ですから。そういう意味では破戒僧でしょうね。）

そんなわけで実際のお坊さんにお会いすると、自身の不肖故の照れや恥ずかしさ、長年の修行に対する畏敬のため、少し臆してしまふことばかりでした。

そんな思いが、五十部さんとお会いして吹き飛んでしまいました。

なんと名活で、（注／頭が明るいからではありません！）しかも、よどみないお言葉。

お坊さんに対するイメージが一新してしまいました。

それと共に、野口晴哉先生に対する見解が、私とまるで同じだったのには驚きました。

つまり、単なる歴史上最高の名医という捉え方ではなく、晴哉先生の悟りの部分を評価され、悟っているのに人間の身心について

も誰よりも細かく観察、解析されたという視点です。

お釈迦さん、イエス・キリスト等々、悟られた方や聖者は数多くいらっしゃりますが、そうした絶対世界を感得しながらも、その上で相対世界、しかも単なる乗り船である身体について言及した覚者は皆無といって等しいでしょう。

そうした野口先生に対して同じ視点を持った方に初めてお会いしたこともあり、私は同志を得た喜びがありました。

そして実に明晰なお坊さんということもあって、お話しをするごとに、「これは私たちだけの会話に留めては余りにもったいない」と毎回感じ、そのため今回のコラボ講座をお願いすることにした次第なのです。

氣道とは、陰陽のマークがそうであるように、絶対界のタオ（空）と相対界の身心（色）とをつなぐ道。（どちらも“氣”なので氣道なのです）

天と地をつなぐ道というと大げさではありますが、素晴らしい五十部さんと俗人である私との関係もまた陰と陽。

そのため、副題として、私の造語である“形而下から形而上まで”を逆さまにして“形而上から形而下まで”とさせて頂きました。

楽しく、そしてどのようなお立場の方にとっても一粒の種が潜在意識に蒔かれる、きっとそんなひとときになると思っています。

（長谷川浄潤）

2017年

3月26日(日)

13時~16時

東福寺塔頭・退耕庵

JR 奈良線・京阪本線「東福寺」駅より徒歩5分
京都市営バス 202・207・208 系統「東福寺」より徒歩2分

- 講師 … 五十部友啓 & 長谷川浄潤
- 受講料 … 5千円
(氣道協会会員および退耕庵坐禅会参加者、学生：4千円)
- お申込先 … 氣道協会 事務局
お電話 (045-261-3300) またはファクス (045-261-3304) でお申込み下さい。



講師プロフィール



五十部友啓

禅僧。退耕庵副住職。ギタリスト。

1983年生。大学時代はJAZZの演奏に明け暮れるが、大学卒業後は禅の道へ。

建仁僧堂に入門し小堀泰巖老師に参禅。東福寺に帰山後、東福寺派

管長 遠藤楚石老師の侍者を務め、その薫陶を受ける。管長侍者と退耕庵副住職としての仕事を掛け持ちしながらも己自究明。ある時、ダルマサンガ -Dharma saMgha- 師家 飯高転石老師と出会い、正師であると確信し参禅。

2015年初春、帰家穩坐。飯高転石老師より印可。現在は退耕庵にて坐禅会を主宰。

神官。僧侶(修験道)。博士(名誉医学)。

早稲田大学 open college 講師。

NPO法人「氣道」協会代表。整体指導者。氣道創始者。修験道教師。アパターマスター。ピアニスト。

1961年生。幼少時より、東洋医学、ヨガ、禅、野口整体、臨床心理など、古今東西の様々な身心技法を研鑽するご縁を頂く。

1989年に「自然に生き、自然を生かす道」である氣道を創始。

第5回、第9回「人体科学会」にて【身心の文法】を発表。

これまで8万人以上の整体指導および健康の自然法(氣道)を伝える数多くの講座を行う。

○主な著書：『氣道』(と)、『声が変わると人生が変わる—声を良くする完全マニュアル55』(春秋社)、『東洋医学セルフケア365日』(ちくま文庫)、その他。



長谷川浄潤

「本当の私」とは、体でも心でもない。そのことを確かな「感覚」として掴んでおくことは、「今」を十全に生き切る力であり、近しい人の死に接する時にも、自分の生命の涯を思う時にも、何よりの力になります。

では、そのような「感覚」を、いったいどのように得たら良いのでしょうか？

——その最もシンプルで明快な「答え」がここにあります。

それぞれの立場からこの道を極めた稀有なお二人による、「今・生きていく」という感覚自体が変わってしまった珠玉の講座。

「禅」という言葉に親しみのない方こそ、ぜひご体験下さい！

(氣道協会 佐野裕子)



..... 『禅と氣道』申込書 FAX: 045-261-3304 (24時間受付)

ふりがな

お名前：

電話番号：

ご住所：(〒 -)

← 氣道協会会員、退耕庵坐禅会参加者、学生の方は、チェックをお願い致します。